

世界に希望を生み出そう

地区目標 ロータリーを語ろう そして ロータリーを楽しもう

クラブテーマ 新会員を育てながら、ロータリーを楽しもう

◆点鐘：長澤 裕二 会長

◆ロータリーソング：それこそロータリー

◆司会：新藤 幸紀 S.A.A.

◆会場：山形グランドホテル



第3001回例会

令和5年12月25日(月)

## 会長あいさつ

長澤 裕二 会長



先日のクリスマス家族会、あと3000回例会、皆さまご苦労さまでした。これでだいたい半分、私の年度が終わったんですけど、まだ一番大事な活動が残っています。それは、蔵王の山に木を植える話です。これは会員活動としてやるというや

つが来年の初夏に予定しています。これが大変ですけど、ぜひ参加していただければと思います。

後半でいうと高知南クラブからの訪問例会が来ます。あと、山辺、中山3クラブ合同例会、これは去年からの持ち越しで今年度実行します。これがだいたい主な行事かなと。蔵王の山にアオモリトドマツを植えるというのがちょっと実験的にやってみたのですが、みんなでやるにはほんとに大変だなと思います。1日がかりの遠足例会みたいなものと思っていますので、ぜひ体だけは空けてください。よろしく願います。

あと、悲しいお話ですけど、結城和生さんが今年度で退会します。結城さんの場合はお仕事をもう辞めているということで、引退になります。今後、楽しい老後を送っていただければというふうに思います。あと、岡田宏道さんも退会になりました。こちらは体の調子の都合ですので、後進にということで息子さんになるべく入ってもらおうようお願いしたいと思います。今日のお話を終わります。ありがとうございます。

## 来賓あいさつ



武田 正男 さん

〔山形東ロータリークラブIM実行委員長〕

来年2月17日土曜日、午後2時30分からパレスグランドでIMを実行する予定です。講師は山形県出身の村山恵一さん。日本経済新聞社のコメンテーターをなさっています。「膨張するAIの光と影 テクノロジーを社会にどう生かすか」という演題で講話していただく予定です。多数の皆さまのご参加、よろしくお願いいたします。

## 幹事報告

三沢 大介 幹事

- 米山功労者第2回マルチプル表彰ということで酒巻雅樹会員に賞状が届いております。おめでとうございます。
- 事務局の年末年始のお休みが今月12月29日から来月1月8日までとなっております。
- 12月末をもって結城和生会員と岡田宏道会員が退会ということで届け出をいただいております。

## 退会のあいさつ



結城 和生 さん

皆さん、こんにちは。私は32年間ですかね、在籍をしました。最初はあまり熱心ではなかったのですが、途中から非常に面白くなって、いろいろな活動をさせていただいて、大変勉強をさせていただいたと思っております。

平成30年に僕の診療所を後輩に託して、譲渡したわけですけども、5年過ぎて来春からは、今まで診てきた老人ホームとあとは寝たきりになっている、僕が診てきた方々を訪問する診療に切り替えるかたちでやっていこうと思っております。そうするとロータリーのほうにご迷惑をかけると思いのので、今回で退会をすることにしました。本当に今までありがとうございました。感謝申し上げます。

## 委員会報告

親睦・家族委員会

先日のクリスマス家族会、多くの皆さまにご出席賜りまして誠にありがとうございます。感謝申し上げます。

来年1月15日に新年会がございます。案内は差し上げていますが、まだご回答いただいていない方におかれましては、予定を調整していただければ幸いです。ぜひよろしくお願いいたします。

## ニコニコ BOX

〈12月25日〉

### 長澤裕二会長／3000回記念例会

クリスマス家族会、ご苦労様でした。盛会ありがとうございました。

### 三沢大介さん／クリスマス家族会・3000回例会

4年ぶりに行動制限がない中で開催されましたクリスマス家族会・3000回例会。奥様、お子さん、お孫さんをお迎えして94名もの皆さまと楽しませていただきました。とても素晴らしい時間を共有させていただいたことに感謝いたします。親睦・家族委員会の皆さま、ご苦労様でした。

### 五十嵐信さん／クリスマス家族会ご参加の御礼

先週開催したクリスマス家族会・第3000回例会にたくさんの方の会員・ご家族にご参加いただきありがとうございました。また来年も楽しくやりましょう。

### 角田健さん／クリスマス家族会に感謝

4年ぶりのクリスマス家族会、楽しませていただきました。妻からも大変喜んでもらい、助かりました。親睦・家族委員会の皆さま、ご苦労様でした。ニコニコです。

### 山形東ロータリークラブ武田正男さん、浦山善太さん

#### ／来年のIMのご案内

来年2月17日にパレスグランデールでIMがございます。ご参加よろしくお願いたします。

### 富田浩志さん／越野さんありがとう

東京・青山でのゆかたまつりの開催の時にはいつもお世話になりありがとうございました。縁あって山形に、谷地に地域活性化起業人としてご活躍いただき、感謝申し上げます。またこれを機会に、これからもよろしくね。

### 武田秀和さん／越野様をお迎えして

青山でのイベントで一緒させていただいた越野様の卓話を聞く機会をいただき、ニコニコします。

### 横沢善則さん／越野さんありがとうございます

お寒い中、卓話においでいただきありがとうございます。お忙しい中、打ち合わせも含めありがとうございました。本日はよろしくお願いたします。

### 市村清勝さん／一級建築士合格しました

私ではなく弊社社員です。本日、一級建築士の合格発表があり、弊社社員28歳女子が合格しました。山形県内で12人という難関です。本人より私のほうが喜んでいて、手を握りながら涙してしまいました。セクハラかもしれませんが、ニコニコです。

### 親睦・家族委員会一同／御礼

先日のクリスマス家族会に多くの皆さまにご出席いただきまして誠にありがとうございました。おかげさまで無事終了することができました。委員会一同、感謝の気持ちを込めてニコニコさせていただきます。

## ゲスト卓話



### 地域活性化起業人として

越野 夏恵さん

〔リーデル・ジャパン株式会社 地域活性化起業人〕

皆さま、こんにちは。河北町地域活性化起業人として東京から移住をして、河北町に住んでおります。リーデル・ジャパンの越野と申します。どうぞよろしくお願いたします。今私がどんなことをしているか、ということをお話させていただき、最後にグラスの紹介もさせていただけたらと思っております。

さて皆さん、地域活性化起業人というの、知っているよという方、どれくらいいらっしゃいますか？2、3？くらいでしょうか、少ないですよ。[「そもそも地域活性化起業人ってなんなの」ということを皆さん思われたと思いますので、少しだけ触れたいと思います。

地域活性化起業人は総務省の制度でございます。東京、名古屋、大阪といった三大都市圏にベースがある企業、ここに属するものが地域の活動のために、課題解決のために派遣をされて活動をする、最長で3年という期間が設けられております。

企業にとってもメリットがございまして、例えば私の場合にはリーデルという会社、東北地方に直営店、拠点がありませんので、私がこうして東北で活動することによって、リーデルという名前が知られる、PRができる、知名度を上げるといった効果があります。これはほかの企業様も同じです。そして地方にとっては三大都市圏からやって来る人間が、地域に知識をもたらす。一緒に活動することでさまざまな視点を持つことができるということで、こうした制度が活用され、今全国で1,000人ほどではないかと思っております。よく間違えられるのが、地域おこし協力隊という、地域おこし協力隊は完全なフリーな立場で地方にやってくるので、私どもの企業に属するものとは少し立ち位置が違うということになります。

私が滞在するのは昨年の4月から2025年の3月まで、3年という期間を設けております。なぜリーデルというウイングラスのメーカーが河北町に来たんだろう、ということをよく質問をされます。これは皆さんどうお考えになりますでしょうか。私が来たのは、河北町でワインづくりをして新しい産業を起し、地域の活性化をしたい。その中で「ワインをただ単に作っても、ワインを飲む文化、楽しむ人が増えなければ、作る意味がないのではないかと考えた河北町の皆さんからのご要望で「ワインを楽しむ文化をもっともっと広げてほしい」ということで、私はこの河北町にやってまいりました。今こちらに掲げてあるとおり、調査をしながら可能性を調べ、そして皆さんに、ワインってそんなに気難しいものではなくて、もっと楽しく日常に取り入れて楽しんでいただけるものではないでしょうか、ということをご提案をしております。そして河北町の盛り上がりはもちろんのこと、山形県全体が盛り上がることを期待して活動を続けております。

なぜ河北町でワインを作ったのか、ということなんですけれども、「美味しいワイン作った！良かったね！」で終わるつもりはありません。この4つの目標を掲げております。新しい誘客を図るためのものとして作る、ということです。この山形県内では日本酒の文化が大変根強く、蔵数



も多いですね。今日酒蔵の方ももちろんおいでになりますけれども、もう日本酒の文化は定着していると私たちは考えています。では、新しい人を呼びにはどうしたらいいかという、ワインを作り、ワインで新しい人を呼び込むということをつなげていきたいと考えています。山形県内、ワインの生産量は日本全国でも4番目に多いところです。皆さん普段ワイン飲みますか？「はい！はい！」と元気がいいお声が返ってくると私もすごく嬉しくなります。ワインを飲んでいただいて、飲む人が増えると山形県全体が潤う。もっともっとたくさんの人を呼び込み、今日日本ワインは注目されている1つになります。こうした形で全国から山形県にたくさんの人を呼び込むきっかけを作りたい、ということになります。

2つ目、観光振興の、ということになるんですけども、河北町にたくさんの方がおいでいただいた場合には、食べる、飲む、泊まる、遊ぶ、お金を使うということになりますので、事業者さんにとっても潤いをもたらすことができるのではないかと、このように考えています。さらに、河北町で作ったワインを飲んで皆さんが「河北町ってどこにあるんだろう」というところから、まず河北町を知っていただくきっかけとなり「どんなところで作っているんだろう」と足を運んでいただき「こんなところでぶどう作ったりお米作ったり、野菜作ったり、果樹作ったりしたらいいな」と考える人が1人でも増えれば、就農者を増やしていくきっかけづくり、提案することにつながるのではないかと、このように考えています。

そしてこの4つを含めて1つにしていくことの最終のところになります。関係人口の増加、ということになります。単なる河北町への往来ではないです。通学や買い物、病院に行く、という目的があるだけではなく、河北町のファンになっていただいて、何度も何度も河北町に足を運んでいただくという方を、もっともっと増やしたいということが目的になります。一つひとつ目的として挙げてありますが、この4つをうまく回していくことによって、河北町がもっと盛り上がっていくことを、私としては、起業人として目指しているということになります。

2022年のぶどうで、デラウェアとマスカットベリーA 2種類ですが、委託醸造にてワインを作るということを最初に手掛けました。そして、ワインができた時に特別試飲会として、河北町の町民の皆さまに最初に飲んでいただきたいと試飲会を設けまして、私のほうからもグラスを使ったミニセミナーということでお話をさせていただき、こうした形でメディアにも取り上げていただきました。そして、昨年からおこなっていることになりましたが、まず私がやっているということは、種蒔きの状態にあると考えています。先ほどもお伝えしました、皆さんにワインを楽しんでいただくということが少しずつ広がっていかないと、いくらワインを作っても、いくらいろんな人を呼び込んだとしても、応援をしていただくこと、サポートをいただくことは難しくなります。なので、今はグラスを使ったセミナーをおこなっています。

今日、いろんなグラスを持ってきているのですが、私どもリーデルのグラスというのは、飲んでいただくワイン、このワインができるのにはブドウの品種によって味わいや色、好みも変わってきます。そうした品種ごとの良さを引き出すためにグラスの種類がたくさんございますので、こうしたグラスでの違いを皆さんに楽しんでいただくテイスティングセミナーや飲み比べをしていただくことで「ワインって意外とおもしろいね」「渋いと思っていた赤ワインって意外とおいしいんですね。甘いんですね」「酸っぱいだけじゃないんですね、白ワインっておいしい

ですね」というような、皆さんに新しい広がりや視点を持っていただくことをお伝えしてお話をしています。

さらにはテイスティングセミナーだけではなく、ご縁をいただいたラジオ出演だったり、寄稿をさせていただいて文章からも発信を続けています。日本ソムリエ協会を通して皆さんに発信をすることで「山形、ちょっと行ってみようかな」「どんなところなんだろう」「河北町って大体山形県のどこにあるんだろう」というところからも知っていただくきっかけづくりを私のほうからおこなっております。実際昨年の4月から今まで私が河北町に住んで、東京や東京以外の九州からも、遠いところからおいでいただいて、「山形に来てみたかった」「河北町がどんなところか知りたかった」という方は少しずつ増やしております。

種蒔きをしたら、次は芽を出さないといけません。芽を出すためにはどうするか。ワインづくりは少しずつ着々と進めておりまして、この2023年のブドウでも委託醸造でワインづくりをおこない、1,000本近くがこの春にリリースをする予定で今準備を進めています。そういった中で、ワインづくりに関わる人を増やしていくということをおこなって続けています。実際にはブドウの収穫のお手伝いに来ていただくということだったり、ブドウを収穫したあとも腐ったブドウの実を取ったりとか、なかなか手間のかかる作業が必要となります。そうした作業に県内だけではなくて県外、そして東京や地方の方も、たくさんの方においでいただいて作業をおこなっています。こうしてモノづくりに自分が関わると、自分が作ったワインとして皆さん愛着を持って飲んでいただいたり、たくさんの方に広めてくださったりということが出来ますので、この作業もずっと続けておいでいただいて、ファンづくりに囲い込む、先ほどの目的のところでも関係人口と申し上げましたが、そういった方たちを少しずつ増やしているということになります。

ワインというのは漢字で書いた場合、どんな字が当てはまると考えますでしょうか。私は平和の「和」もそうですね、話すと飲むでも「話飲（ワイン）」、そして輪っかです。縁づくりがさらに強固な形になっていくということでもワインと言えるのではないかなと思っておりますので、ワインはそんな素晴らしい飲み物ではないかと、自分としてはすごく思っております。こうしてワインは気軽に飲むこともできるし、楽しむこともできるし、縁づくり、輪づくりとしても大変重要なものであるということと皆さんにも感じていただきたいということ。豊かな時間を得ることで楽しんでいただく、人生を豊かなものにしていただくということでお話をさせていただいています。

芽が出たら次は花ということになると思います。花を咲かせるには、あと私が残された1年3カ月では到底難しいなということを実感しています。当初から3年で花を咲かせるまでにはなかなか厳しいなところを思っておりますので、私が去年からずっと手がけてきたことは、私自身ですべてをできないということを前提に考えると、やってくれる人を探すということになります。私はブドウの栽培家でもありませんし、醸造家になることもできない。スキルや経験もありません。という中で、私の友人でフランスのブルゴーニュとか、国内でも有名なワイナリーで経験を積んできた友達に、河北町と一緒にワインづくりをしないかということとをずっと口説き続けて、この4月にはやって来てくれる決意を固めてくれました。こうした仲間たちと一緒に続けていく、実際にワイナリーを作ったところで初めて人を呼びかけができますし、事業者さんに還元することもできますし、関係人口づくりということに着手していけるなというふうにも思っております。

で、この友人にも感謝をして、彼女も私が河北町にいるから来てくれる決意を決めてくれまして、今は会社も退職して移住する準備を着々と進めてくれています。そういう中で計画も持ってきてくれますので、一緒に取り組んでいきたい。その中でお互いに思っていることは、河北町を単なる通過点にしないということです。立ち寄っていただける町にしたいということです。山形県内にたくさん観光客の方が来ますけれども、大体どういうルートを通るかご存じでしょうか。大体が蔵王に来て、銀山温泉に行つて、スイデンテラスに泊まるというルートが多いですね。そうすると、河北町はまったく通過されてしまって、寄っていただくのがとても難しいんですね。ぜひ立ち寄っていただける場所を探したいというふうに思っています。

そんな河北町の現状なのですから、今ワインを飲めるお店が、しっかりとしたところがないんですね。私のように毎日のようにワインを飲む人間が、お店で飲みたいなと思った時は、ここ、山形までやってまいります。来る時はいいんですね。意気揚々と「ワイン、飲める」と思つて来るので。帰りです。時間がかかります。お金もかかります。その時間とお金があったらもうちょっとワインが飲めるのにというのが、いつも私が思つて帰ってくるころになるんですね。

私が今夢として考えていることは、河北町でワインを提供できる場所があったらいいなと思つているので、これを自分で手掛けられないだろうかと思つています。日中はワインサロンとしてイベントをしたり、セミナーをしたり、ワイナリーの方と一緒に何かをすとか、そういうこともしながら、夜はワインを楽しめるスペースとして活用できたらなというところを考えています。ワインファンを中心としてコミュニティーを作っていく。それが飲食店全体を盛り上げるということができるというように、夢のような話だと思われるかもしれませんが、そんなことがこの河北町を通じてできれば、河北町全体が盛り上がることはもちろんのこと、これが山形県全体の底上げになっていったらなというように思っています。ワインも日本酒も素晴らしいものが揃つているのがこの山形県です。GI認証も両方取っていますし、そういったところを少しずつ盛り上げていきたいなというように考えています。

花を咲かせるためにはまだまだ課題はたくさんです。しかし、皆さんとこうして縁ができること、いろんなところでワインのお話からいろんなつながりが持てること、これを素晴らしいなと思つておりますので、こう感じてくださる方を1人でも増やして、コミュニティーを作って、そして河北町、山形県を、全体を盛り上げていくことに積み重ねを図っていききたいなというように思っています。

そしてグラスを、ちょっとご紹介をさせていただきたいと思つています。リーデルは1756年に創立していますので、もう260年以上の歴史を重ねています。リーデル家が代々続いている企業でして、今は11代目が、マキシミアンが私たちの筆頭という会社になります。大きな卵型の形状と口元にすぼまりがあるというのが私どもグラスの特徴になります。卵型を踏襲して底が平らになっているグラスということで、いろんな機能を備えたグラスがあります。たくさんの方に使つていただきたいなと思つております。

こちらのテーブルにあるのが、今一番最先端で作上げたシリーズになります。スーパーレジェーロ・マシンメイドといつて、スーパーレジェーロというのは羽のように軽

いという商品なのですけれども、もともとこちらは職人が1つずつ作るハンドメイドのグラスでした。それを機械の技術を使って機械づくりをしたというのが今お持ちいただいているグラスになります。機械で作ったとは思えない薄さや軽さがある、大きなボール形状、こちらはシャンパンを飲んでいただくためのグラスになります。シャンパンも今はフルーツグラスではなく、こうしたふくらみのあるグラスで飲んでいただくと、ワインのおいしさや香りを感じていただけるというグラスになります。今日お持ちしたグラスの中では、1個あたりの値段が1番高価なグラスになります。

そしてちょっと大ぶりのグラスがあると思つています。こちらは薄くて軽いタイプなのですから、デボーチェというシリーズになります。カベルネ・ソーヴィニオンを飲んでいただく、ボルドータイプを飲んでいただく、渋みのしっかりある赤ワインを飲んでいただくものです。薄くて軽いのでほんのちょっとした衝撃で割れてしまうのですが、これだけ薄くて軽い技術を出すというのがリーデルの強みだということ象徴する商品になります。

こちらにある商品はパフォーマンスというシリーズになります。ちょっと見ていただくとキラキラして見えると思うのですが、これは内側に12本筋が入っています。内側にだけ入っているので、口を付けても凹凸感はないのですけれども、中に筋があることでワインの表面積を広げてあげると、より香りや味わいが広がるというタイプ。これはリースリングという白ワインを飲んでいただくグラスにはなりますが、軽めの赤ワインでも十分に飲んでいただくことができるという汎用性のあるグラスになります。

そしてこちら、ワインウイングスといつています。ボトムの部分、底の部分が平らな状態になっているので、ワインを入れるとすぐに香りが開いて飲み頃になる。ボトルの中の本来的な香りを感じやすいという商品です。こちらカベルネやメルロといったボルドータイプのワインを飲んでいただくのにおすすめのグラスになっています。

そしてもう1つ、脚がないタイプもいくつか置かせていただいております。こちら今お見せしたワインウイングスとちょっと形が似ているのですけれども、脚がないので、倒してもこぼれにくい、割れにくいというところがあります。こちらはこうした入れ物に入っているので、持ち歩くことができます。こちらリースリングやシャンパーニュを飲んでいただくのにおすすめの小ぶりのタイプになります。実際に私は、これとちょっと似た商品があるのですけれども、これを新幹線ですべて飲んでいたら、「これはどこで買えますか？」ということで、新幹線でも私は営業を必ずするというをしておりますので、ぜひ皆さんに使つていただくと宣伝になるなというところを思つております。

弊社のグラスは「洗うと割れそうだから怖いのでしませんが」という方が結構いらっしゃるのですけれども、ぜひしまわずに使ってください。使つていただくことが何よりもです。ワインを楽しんで飲んでいただくための道具として皆さんにご愛用いただけることをお願いします。

おいしいワイン、高価なワインはぜひグラスを使つてその味わいや香りの違いというものを皆さんに楽しんでいただけることをお勧めしたいと思つています。ここで登壇を終わらせていただきます。最後までありがとうございました。

本日出席 (12 / 25)	会員総数	出席会員数
	103名	56名